

# 花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ対立してく2

国立市立国立第七小学校

平成26年12月12日 NO.66 (166)

オー君 「ねえ、花ちゃん。今年<sup>ことし</sup>は馬年<sup>うまどし</sup>だよ。でも、どうして馬<sup>うま</sup>なの？」

花ちゃん 「そんなの決<sup>き</sup>まっているでしょ。去年<sup>きょねん</sup>が巳年<sup>みどし</sup>(へび)だったでしょ。だから、順番<sup>じゅんばん</sup>で今年<sup>ことし</sup>は馬年<sup>うまどし</sup>よ。そして、来年<sup>らいねん</sup>はひつじ年<sup>どし</sup>ね。」

オー君 「ちょっと、ちょっとちょっと。そんなにかんたんに答<sup>こた</sup>えないでよ。ぼくが知<sup>し</sup>りたいのは、どうして動物<sup>どうぶつ</sup>を使<sup>つか</sup>って年<sup>とし</sup>を決<sup>き</sup>めるかということさ。ひつじ年<sup>どし</sup>があれば、ライオン年<sup>どし</sup>とか、キリン年<sup>どし</sup>とかあってもいいんじゃないのかな。へび年<sup>どし</sup>があるなら、トカゲ年<sup>どし</sup>なんかあっても楽しいのになあ。」

花ちゃん 「ちょっと、ちょっとちょっと。キリン年<sup>どし</sup>とか、トカゲ年<sup>どし</sup>なんてないわよ。」

モンタ博士 「まあまあまあ、しずかにしずかにね。何<sup>なに</sup>をそんなに言<sup>い</sup>いあらそっているの。」

オー君 「だって、花ちゃん<sup>い</sup>がわかんないこと言<sup>い</sup>うんだもん。」

花ちゃん 「だって、オー君<sup>じゅうにし</sup>が十二支<sup>い</sup>についてめちやくちや言<sup>い</sup>うんだもん。」

モンタ博士 「そうか。十二支<sup>じゅうにし</sup>についてのお話<sup>はなし</sup>だね。花ちゃん<sup>い</sup>は、十二支<sup>じゅうにし</sup>ぜんぶ言<sup>い</sup>えるの。」

花ちゃん 「ね(子)、うし(丑)、とら(寅)、う(兔)、たつ(辰)、み(巳)、うま(午)、ひつじ(未)、さる(申)、とり(酉)、いぬ(戌)、い(夷)の12ですね。」

オー君 「え!何<sup>なん</sup>だよ。今<sup>いま</sup>のは?ひょっとして宇宙人<sup>うちゅうじん</sup>語<sup>ご</sup>かよ。」

モンタ博士 「花ちゃん<sup>い</sup>はよく知<sup>し</sup>ってるね。感心<sup>かんしん</sup>だね。本当<sup>ほんとう</sup>は、五行<sup>ごぎょう</sup>、十干<sup>じっかん</sup>、十二支<sup>じゅうにし</sup>というんだけど、まあ、むずかしいお話<sup>はなし</sup>はやめといて、何<sup>なん</sup>でこんなものがあるか知<sup>し</sup>ってるかな？」

オー君 「ぼくは、ちんぷんかんぷんだ。」

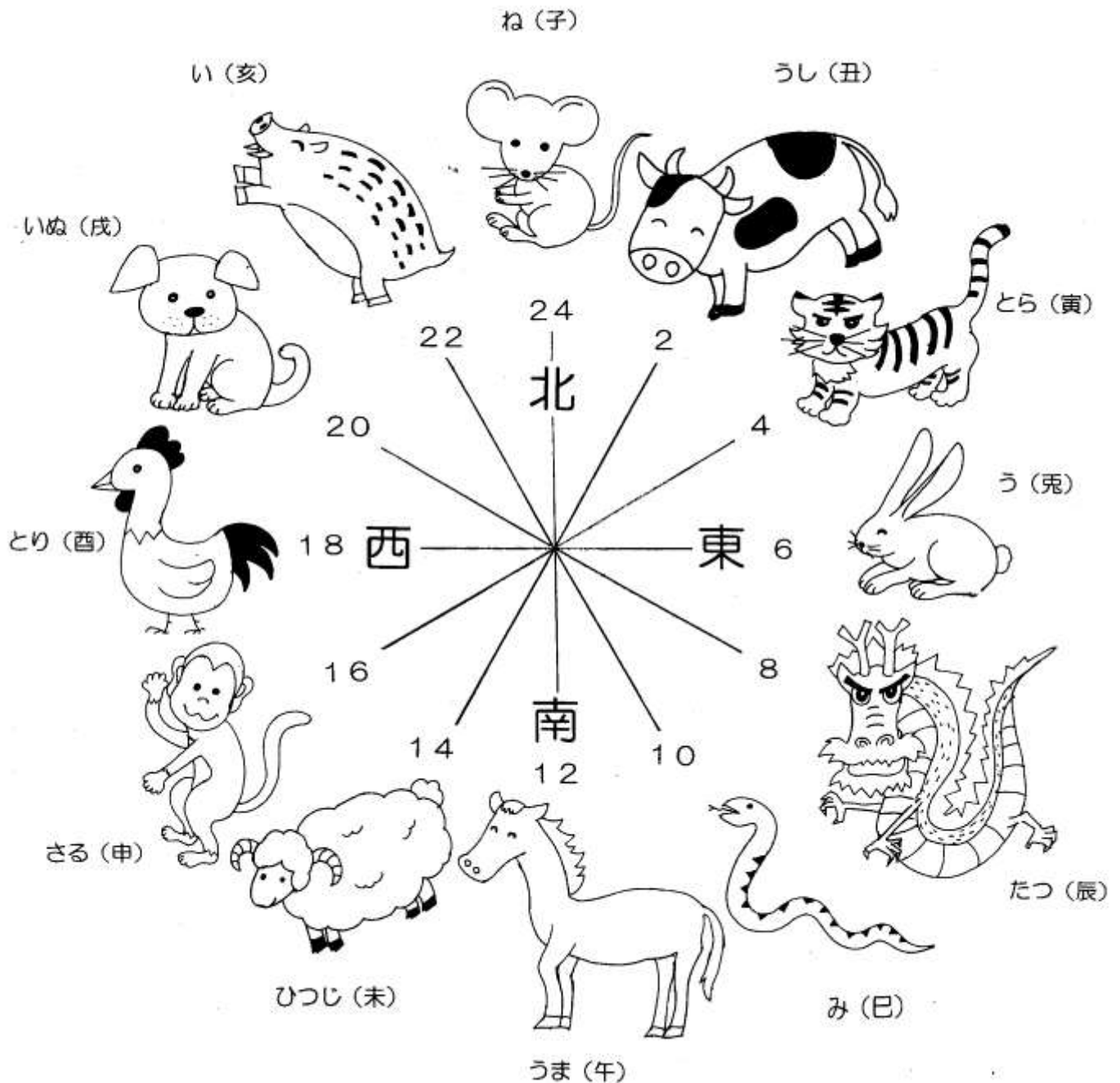
モンタ博士 「あのね、12支<sup>し</sup>というのは、昔<sup>むかし</sup>の中国<sup>ちゅうごく</sup>で作<sup>つく</sup>られたのさ。今<sup>いま</sup>みたいに、ちゃんとした暦<sup>こよみ</sup>がないころ、年<sup>とし</sup>、月<sup>つき</sup>、時<sup>じ</sup>こく、方角<sup>ほうかく</sup>をあらわしたのさ。」

花ちゃん 「そうなの。そうなの。12の動物<sup>どうぶつ</sup>が順番<sup>じゅんばん</sup>にならんでいるのよ。」

モンタ博士 「まあまあ、むずかしいお話<sup>はなし</sup>よりも、楽<sup>たの</sup>しく十二支<sup>じゅうにし</sup>のぬりえでもしようよ。

それから、このさい、『ね・うし・とら・う・たつ・み・うま・ひつじ・さる・とり・いぬ・い』と、覚<sup>おぼ</sup>えてしまおうよ。校<sup>こう</sup>長<sup>ちょう</sup>先生<sup>せんせい</sup>にお願い<sup>ねが</sup>して『検定<sup>けんてい</sup>』をや<sup>や</sup>ってもら<sup>ら</sup>うことにしよう!

# 12支:昔の時こくと方角など



## 12支の検定について

一般社会人の常識として、12支を諳んじることが必要であると思います。そこで、今回、中休み・昼休み・放課後のいずれでもOKですので、検定を実施したいと思います。「ね・うし・とら・う・たつ・み・うま・ひつじ・さる・とり・いぬ・い」と唱えることができれば合格とします。合格した人には、国立第七小学校特製の『12支合格証』を差し上げます。皆さん奮って検定を受けに来て下さい。お待ちしております。この検定は、何度チャレンジしてもOKです。全部覚えることができるまでがんばりましょう。

## お化けは何時ころにできるかな？

「草木も眠る丑3つ時…ヒュルヒュルヒュル・ドロドロドロ」とお化けはでてくるものらしい。そこで、疑問が生じた。「丑3つ時」とは、はたして今の時刻で言うと、何時頃になるのだろうか？困ったので、広辞苑で調べると、真夜中の2時から2時半ころとなっている。丑が2時なら、「3つ時」とは？これまた疑問が残る。そこで、三鷹の国立天文台に電話して聞いてみた。すると、答はこうだ。昔の丑の時刻とは、午前1時から3時ころまでを指すとのことで、かなりアバウトだ。となると、30分刻みで考えていくと合点がいく。なぞは解けた。お化けがでる時刻もはっきりとわかった。でも、お化けがいるかどうかの謎はまだ残る。いずれにしても真夜中の2時から2時半ころは要注意だ。